

# 魚市場見学・解剖実習

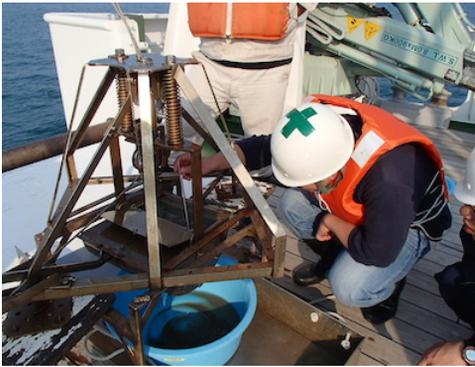
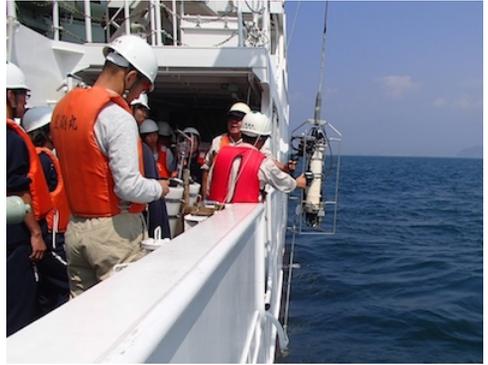


早朝の大三島漁協・浦戸市場へ、レンタサイクルを利用して移動。水揚げや市場施設の見学、漁業関係者への聞き取りを通して地域漁業への理解を深めた。大三島では刺し網漁が代表的な漁法であり、マダイ、キジハタ、オニオコゼ、ウマヅラハギ等が水揚げされていた。



浦戸市場で購入した魚を豊潮丸へ持ち帰り、解剖実習を行なった。鮮度の良い魚を用いる事が出来たため、体の各器官の状態も良く、有意義な解剖実習となった。

# 海洋観測実習



CTD、プランクトンネット、SM採泥器、バンドン採水器、透明度板を用いた。同じ瀬戸内海であっても、潮流や周辺的环境による多様性がある事を学んだ。



SM採泥器およびプランクトンネットを用いて採取した生物について、ソーティング作業を全員で行なった。また、CTDなどで得られたデータとの比較や学生相互の議論を行ない理解を深めた。

# 寄港地・上陸しての実習

## ○干潟生物観察（大三島）



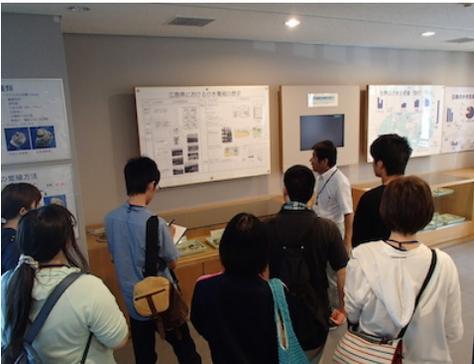
大三島には豊かな干潟が残されており、そこには多様な生物が生息している。一面同様に広がっていると思いがちな干潟であるが、観察することで、底質に多様性が見られることや、底質により生息する生物も異なること等を現場で学ぶことができた。

## ○潮待ちの港町見学（大崎下島・御手洗）



御手洗地区は、江戸時代“潮待ち”で栄えた様子を今に伝える街である。当時の日本において、瀬戸内海が海運の面でも重要な役割を担っていた事を学んだ。

## ○広島県水産海洋技術センター見学（倉橋島）



広島県の水産研究施設である同センター見学を通して、水産業における行政機関の役割、最先端の水産研究についての理解を深めた。

# その他実習中の一コマ



どの実習でも乗船後まず行なうのは、  
避難・退船訓練。  
避難経路、船内の緊急救命設備を確認。



実習の朝は、ラジオ体操から。



夜の自由時には釣りをすることも。  
釣果はメバル、シログチ、タチウオ等。



島の海鮮料理屋で出てきたアラ煮。  
ほとんど流通には乗らない地物のコブダイ。  
島に滞在する実習ならではの経験。



実習最後は、甲板・船内の清掃。  
救命胴衣・長靴も洗って綺麗に。



修了証書の授与で、実習終了。